



史跡マップ⑥ 法印屋敷と避病舎

小さいお子さんからお年寄りまで三世代が揃って、津田町の歴史・文化施設を訪ね歩く催しを、昨年十一月二十二日(土)に開催致しました。

全国的に核家族化が進む中、私たち津田の町としても例外ではなく、親から子へ子から孫へと、言い伝えられてきた地域の歴史や文化が消えかかっているという深刻な状況であると言っても過言ではありません。

この行事は、幸いにも、徳島市の『地域の力』まちづくり支援事業に津田コミュニティ協議会が応募して採択されたことを機に、実施されました。島田会長を中心に郷土史に詳しい方々のご尽力により、三年の年月をかけ地域の歴史や埋もれている史跡など、調査研究の集大成として

津田コミュニティ協議会  
副会長 吉村 文夫

# 第三回 三世代交流 津田の歴史・史跡めぐり



徳島市コミュニティ協議会  
徳島市幸町2丁目5番地  
TEL(088)621-5510  
FAX(088)621-5511



史跡マップ⑦ 穴観音、六右衛門大明神

小冊子「津田の歴史・史跡めぐり」にまとめました。

そして、その冊子に基づき、毎年三世代交流による「津田の歴史・史跡めぐり」を行って、地域の歴史や文化を残し伝えていくとともに、町の活性化に努めてきました。

さて、三回目になる今回は、朝九時に津田中学校に集合し、約百人が二班に分かれて津田小学校周辺の十カ所の史跡等を、交通安全に気をつけながら二時間かけて巡りました。

講師案内役として、津田公民館の山本主事、津田清老会の林会長、ほか有志の方が当たられ、詳細な説明がなされました。参加者の中には、熱心にメモを取る人や、質問す

## 史跡マップ



- ① 出張りの地蔵尊
- ② 平野邸の土堀
- ③ 福村邸の石将軍
- ④ 北向き地蔵
- ⑤ 山の神
- ⑥ 法印屋敷と避病舎
- ⑦ 穴観音、六右衛門大明神
- ⑧ 山瀬佐蔵
- ⑨ 首なし地蔵
- ⑩ 丸池地蔵

る人もたくさんありました。最後には、巡ってきたところの歴史や史跡についての「二者択一式」のクイズをみんなが楽しみながら解いていくなど、若い人たちにとって、自分たちの町の良さを認識してもらおう絶好の一日であったと思います。

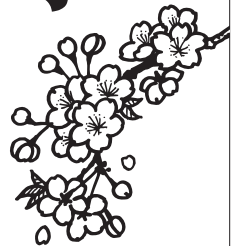
《参加した若者のことば》  
「今は親元を離れているが、長男のためいずれば同居する

べきだと、家族ともども再認識しました。この素晴らしい山裾や町並みを散策し、郷土の歴史、史跡などを伝承し、友人知人、また市町村へと発信したい。」

「私たちコミュニティ協議会としても、次回には狸の古戦場跡など、新浜地区を中心に史跡めぐりを計画し、さらに多くの三世代との交流を深めていく決意を新たにしております。」

シリーズ  
名所・旧跡

# 渭東の古刹 慈光寺・東照寺



渭東地区文化財保勝会  
西原 正己

「渭東」が町としてきちんと整備されたのは、蜂須賀家政が阿波に入国してからのことです。渭東は城下の外柵の位置にありましたが、水軍の拠点(安宅役所)が置かれ、それにかかわる船大工や細工人、水師などの町として発展していきました。

## 慈光寺

(福島一丁目一〇一七三)

寺伝によると蜂須賀至鎮が京都南禅寺の梅心を開山として招き、名東郡八万村に創建した広雲寺が前身で、慶長十一(一六〇六)年、至鎮の生母生駒氏が没すると、城下に移してその墓所とし、生駒氏

の法名(慈光院)を当てて寺名を慈光寺と改め、伽藍を完成させました。

南山・春叢・陽関らの名僧が次々輩出し、この禅堂には道を求める雲水たちが各地から集まり隆盛をきわめました。



墓地には、家政正室や重臣たちの墓のほか、赤穂義士の近松勘六・奥田貞右衛門の母、近松カメの墓があります。阿波藩士仁尾清右衛門の娘にカメという人がいました。カメは夫に仕え、前妻の子、行重(のちの勘六)をわが子

のように愛育しました。そのうちに貞右衛門という実子が生まれましたが、同藩士奥田孫太夫に子どもがなかったの

で、これを養子としました。のち元禄十五(一七〇二)年十二月赤穂義士四十七人が吉良邸へ討ち入りし、その翌年二月泉岳寺にて切腹しました。カメはその七年後の宝永七

(一七一〇)年にこの世を去り、この寺に葬られました。また幕府から徳島藩に預けられ、延宝八(一六八〇)年、福島屋敷で自刃した旧下総佐倉藩主堀田正信の墓もあります。

## 東照寺

(福島二丁目三一七)

寛永二(一六二五)年に創建され、古くは不断寺といいましたが、それから約六十年後、今の本尊十一面観音像が

安置されてから今の名称の東照寺に改められました。



寺宝に鎌倉後期の作品で本尊地藏菩薩半跏像があります。明治四十四(一九一一年)八月九日に国の重要文化財(彫刻)に指定されました。左手をひざの上に置いて、掌に宝珠を載せ、右手で錫杖を持つのは普通の地藏菩薩と同じですが、座り方が少し変わっています。左脚を踏み下げたスタイルです。



座高は八六・六寸、寄木造りで、眼は水晶を用いた玉眼になっています。この手法は仏像の眼に現実感を与えるために生み出されたもので、鎌倉時代以降の作例に一般的に見られるものです。当初は、彩色が鮮やかであったと思われませんが、現状では剥げ落ちていきます。丸々とした頭部を持ち、体軀にもどつしりした重量感のある像で、重なり合う衣には複雑な動きを持つ襷が数多く刻まれています。

(渭東をめぐる)より

(渭東コミュニティ協議会)



# 南井上地区社会福祉協議会の活動について

南井上地区社会福祉協議会  
会長 杉本 久

## 一 味菜会

独居の高齢者百二十四名のうち、食事サービスを希望し、必要と認められる方を対象に毎月一回（七～九月を除く）、昼食会をコミセンで開催。民生児童委員、女性会、ボランティアA iの方々が、季節の献立を工夫し、旬の食材をできるだけ持ち寄り、前日から準備・調理した素敵な昼食と、季節の折り紙がテーブルに並べられます。



味菜会（平成26年3月13日）の会食風景

食事の前に、市保健師の検温・血圧測定と保健の話、国府町府中交番の方による防犯の話等、当月誕生日の方へプレゼントを行います。味菜会は、高齢者とボランティア（合計八十～百名）の和気あいの会話が弾む中で進み、最後にピアノ伴奏に合わせ唱歌、童謡等を合唱し「ごちそうさま」です。

## 二 戦没者追悼の集い

平成二十六年六月十五日に戦没者の御霊を迎え戦没者追悼の集いをコミセンで開催。前年までは社協と遺族会の共催で、遺族の方のみに案内し「慰霊祭・神式又は仏式」として実施してきました。今回からは、町内会連合会も共催に加わり、地区住民の皆さまに案内、参列をいただき、「追



敬老会

センで開催。最長寿（百八歳）、長寿（百歳以上）、米寿、喜寿、金婚の方に祝い状と記念品を贈呈し、来賓から祝辞を賜り、小学校児童から「敬老のことは」が発表されました。「お楽しみ演芸会」では、幼稚園児の歌と踊り、小学校三年生児童の歌と演奏、小学校児童の金管演奏、「阿波藍連」の阿波踊り等十三組が出演し、長寿を祝いました。

## 四 社協活動の支援者

社協の活動を充実するため、社会福祉事業を営む方に、支援をお願いし、共に地域福祉に取り組み仲間として、次の方に社協のサポーターになっていただきました。

健祥会様、明和福祉会様、鮎喰川福祉タクシー様

（南井上コミュニティ協議会）

## 三 敬老会

平成二十六年九月十四日、七十五歳以上（対象八百十二名）の長寿を祝う敬老会を百三十五名の出席を得て、コミ

悼の集い・無宗教」を開催し、再び悲しい歴史を繰り返すことのないよう平和への誓いを新たに、壇上の白菊で飾られた地区出身の百九十五柱の御霊に各自献花しました。



会場の様子

テレビも、ラジオも天気予報は、雨。それでもまだ晴れることを信じて：  
十一月九日(日) 徳島市コミュニティまつりが、主会場となった上八万コミュニティ

# 第24回

# 徳島市コミュニティまつり

上八万まちづくり協議会

会長 阿部 増江



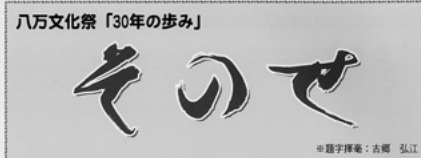
ウォーキング

センターで盛大に開催されました。今回は、第五ブロックに所属する八万、八万中央、一宮、入田、上八万の協議会が運営にあたりました。  
十時から開会、徳島市長原秀樹様、市議会議員加村祐志様、また、ご来賓の皆さまからご祝辞を頂きました。  
外は雨がだんだん本降りになってきましたが、雨が降っても行うとのことで、雨など気にせず各協議会はテントに囲いをして、実施しました。  
お餅つきから、パットライス、植木、野菜、焼きそば、綿菓子、コーヒードリンク、ポップコーン、しいたけ、うどん等の即売コーナー、また、お茶席、マツサージコーナー等模擬店は大人気でした。また、演芸大会も少し会場が狭いこともあり、熱気ムンムン、大いに盛り上がりました。  
ウォーキングは、一宮コミニ

ティセンターから出発して、一宮城趾を目指して歩く約四kmコースです。「地域に詳しい人が説明してくれて良かった」との声がありました。  
大抽選会は、一宮コミセンが担当で、発表のたび、歓声が上がって賑わいました。用意した抽選券四百枚が、ほとんど残りませんでした。  
たくさんの皆さまにお越しいただき、ありがとうございます。五ブロック協議会、市民協働課の皆さま、そして各地域の皆さまには、大変お世話になりました。お礼申し上げます。  
上八万で行われた徳島市コミュニティまつりは、多くの人に支えられてのお祭りでした。ありがとうございました。



演芸大会



八万文化祭「30年の歩み『そのせ』」編集委員会

## 「八万文化祭『三十年の歩み』“そのせ”」の発行

八万コミュニティ推進協議会

昭和五十九年五月二十七日八万コミュニティセンター落成式を機に、その翌年の昭和六十年十一月二十三日(土) (二十四(日))に、「第一回八万文化祭」が開催されました。  
その後、毎年開催され、昨年十一月十五日(土) (十六日(日))に三十周年を迎えました。記念イベントとしては何も実施しておりませんが、この輝かしい「第三十回目」に当たる節目の年に、何か記念に残る成果物の発行をと企画しましたが、記念誌「八万文化祭『三十年の歩み』“そのせ”」の発行でした。  
この事業は、「八万文化祭『三十年の歩み』“そのせ”」



文責：三木敏史  
（「そのせ」編集委員長）

編集委員会のプロジェクトチームが中心となって制作したものであります。特に「(一)挨拶・祝辞・関係者からのメッセージ編」のコーナーでは、徳島市の原市長並びに石井教育長、他多くの関係にもご祝辞を賜りました。おかげで内容の濃い記念誌に仕上がりました。詳細は、左記の「主な内容」のとおりです。

この記念誌は、非売品の限定発行ということで、希望者全員に配布することが困難な為に、徳島県立図書館・文書館や徳島市立図書館等に寄贈してあります。ご覧になりたい方は、是非お足をお運びください。

なお、各コミュニティ協議会事務局にも送付してあります。

○主な内容：(一)挨拶・祝辞・関係者からのメッセージ編／(二)本編(三十周年の歩み)／(三)受章・顕彰コーナー編／(四)思いでのスナップ・資料編／(五)編集後記

阿波の名医

小原 春造

沖洲コミュニティ協議会

現在の徳島大学医学部・薬学部の淵源といわれる小原春造は、沖洲墓地内の木立のもと、訪れる人も少なく、静に眠っています。

春造は、応神町から京都に出て開業医を営んでいた父、澤玄重の二男として宝暦十二(一七六二)年、生まれました。

若くして「日本のリンネ」ともいわれた小野蘭山に師事して本草学(薬学)を学び、各地で医学・本草・金石(鉱物)の調査研究に携わり、その英才ぶりは周囲からも認められていたといえます。

おりしも当時、阿波藩では医師学問所と薬園の併置開設を準備しており、寛政六(一七九四)年、春造は父の出身地であることもあって藩医および学問所の講主として招かれました。

徳島市沖洲町舟戸南に宅地が与えられ、その居宅を医師学問所に充て、付近に薬園を設置し、医師を集めて医育

を始めました。

幕藩時代、医師になるためには、他の医家に入門して修行する、いわゆる徒弟教育を受けなければならなかったようですが、春造の医育には、この時代、画期的な取り組みであり、徳島の医学・医育・本草学の礎を築き、これが現在の徳島大学医学部ならびに薬学部の淵源とされるゆえんでしょう。

春造の残した著作のなかでも目を見張るのは「阿淡産誌」で、親子三代にわたって完成した彩色図譜です。当時の阿波・淡路両国の本草・金石・虫魚・鳥獣などを掲載し、それらの名称・形態・産地・用途・効能などを記述したものです。

明治五年に徳島県庁で稿本が発見され、一三六卷五十七冊にまとめられ、現在は東京国立図書館に所蔵されているといえます。

その写本の一部が徳島市立図書館に所蔵されており、閲



小原春造の墓碑

覧すると、文脈はともかく、淡彩色ながら繊細に描かれた画の美しさに息をのみます。

春造は六十一歳で没し、その墓碑は門人たちの手によって建てられたといえます。

今となつては、法名「問寿院答明峯山居士」の刻印が、苔むした墓碑の正面からかすかに読み取れるばかりです。



# 地域住民福祉向上の一助として



西富田コミュニティ協議会  
広報部 岡田 佳子

西富田コミュニティ協議会の組織に、総務部、福祉部、文化厚生部、健康部、環境部、防災部、広報部の七つの専門部会があります。  
今回、福祉部会が地域住民の福祉向上を願い、年間五回開催している「いきいきサロン」の紹介をさせていただきます。  
これは、地区内で六十五歳以上の方を対象とし、物作りや対話の機会を作ります。

目的に始めました。既に、本年度第一回から第四回まではいずれも好評のうちに終了しています。  
内容を紹介しますと、第一回は六月十五日に「げんこつ飴」を作りました。講師に、伊賀町の料理研究家青木訓子先生を迎えて開催しました。昔懐かしいお菓子(飴)で、はったい粉ときな粉の香ばしい香りと甘さに、和気あいあいの楽しいひとときとなりました。



げんこつ飴

第二回は、八月十八日「カラーろうそく」を作りました。講師は、岩佐重明公民館長で、原料のパラフィンを溶かし、好みの色のクレヨンを削って型に流し、固まったら仕上げ

りです。カラフルな何色もの重なりに、皆さん童心に返り大喜びでした。  
第三回は、十月十日に「未の干支」を作りました。講師は伊賀町の伏谷和子さんと、和紙のちぎり絵で作った可愛い掛け軸です。和紙を細かくちぎることから始まりますが、なかなか難しいです。表情豊かな作品で、平成二十七年がとて楽しみます。



カラーろうそく

第四回は、一月十九日に「石彫勾玉ストラップ」を作りました。講師は岩佐重明公民館長で、昔懐かしいろう石(滑石)に、型を描いて肥後守(小刀)で削り、ペーパーで仕上げます。小学生が夏休み



未の干支

に公民館の「物作り講座」で上手に作っていました。私たちは思うようには出来ず、勾玉とは違った作品となった方もおられました。とても楽しかったです。

まだあと一回、フロアカーリングが残っていますが、毎年いろいろな物に取り組み、地域住民の方が、楽しんだり懐かしがったりして和気あいあいと過ごせる計画を立てたいと思います。



青色LEDの研究開発により、ノーベル賞に輝いた徳島大学工学部卒の中村修二博士は徳島学界の誇りです。日本薬学の祖といわれる永井長義博士もいます。  
江戸時代、医学・医育・本草学(薬学)の基礎を築き、現在の徳大医学部・薬学部の淵源を作った小原春造も広く市民に知ってもらいたいものです。津田の歴史めぐりでも、山瀬佐蔵の墓石説明が記されています。とてもよい試みです。  
渭東の古刹慈光寺・東照寺の紹介も貴重なものです。蜂須賀家政の正室生駒氏の墓があり、初代藩主至鎮の生母であり貴重な説明をしてくれました。また有名な赤穂浪士の中に、近松勘六の育ての母カメがおり、勘六討ち入りの前にカメを訪ね、別れを惜しんだという秘話が込められています。  
西富田のコミュニティ活動の紹介は、福祉部会のユニークな活動は大きな参考になるでしょう。南井上の敬老会、戦没者追悼の集いは地域づくりの根幹となるものです。八万文化祭「三十年の歩み」は歴史を積み重ねるでしょう。

(佐藤義忠 記)

編集後記